リアルタイム現地情報

今年のトマト生産を振り返って

鉾田地域は県内最大のトマト産地で、主力のミニトマトの他、中玉、大玉も作付けされています。また、トマト、ミニトマトは県の青果物銘柄産地等にも指定されており、高く評価されています。

12 月 9 日に JA ほこた、12 月 12 日に JA 茨城旭村のトマト部会生産者大会が開催され、今年のトマト生産販売に関する結果が報告されました。

鉾田地域のトマトは、①３月頃に定植し、８月頃まで収穫する「春作」、②６月中旬頃から定植し、気温の低下とともに収穫を終了する「抑制作」の２つの作型で栽培されています。春作は日照時間が平年よりも長く、天候に恵まれ順調に生育した結果、昨年並みの収量となりました。抑制作は 6 月下旬以降の猛暑により、作の前半では着果不良や果実の小玉傾向でしたが、後半は回復し、収量を確保できました。また、販売額は、生産量は昨年並みでしたが、高単価で推移したため、昨年を超えることができました。

病害虫の発生は、一部圃場でアザミウマ類による食害やタバココナジラミによる黄化葉巻病、萎凋病等の土壌病害が見られました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、トマトの安定生産による所得向上を支援していきます。

鉾田地域農業改良普及センター